

文部科学省大学改革推進等補助金 課題解決型高度医療人材養成プログラム

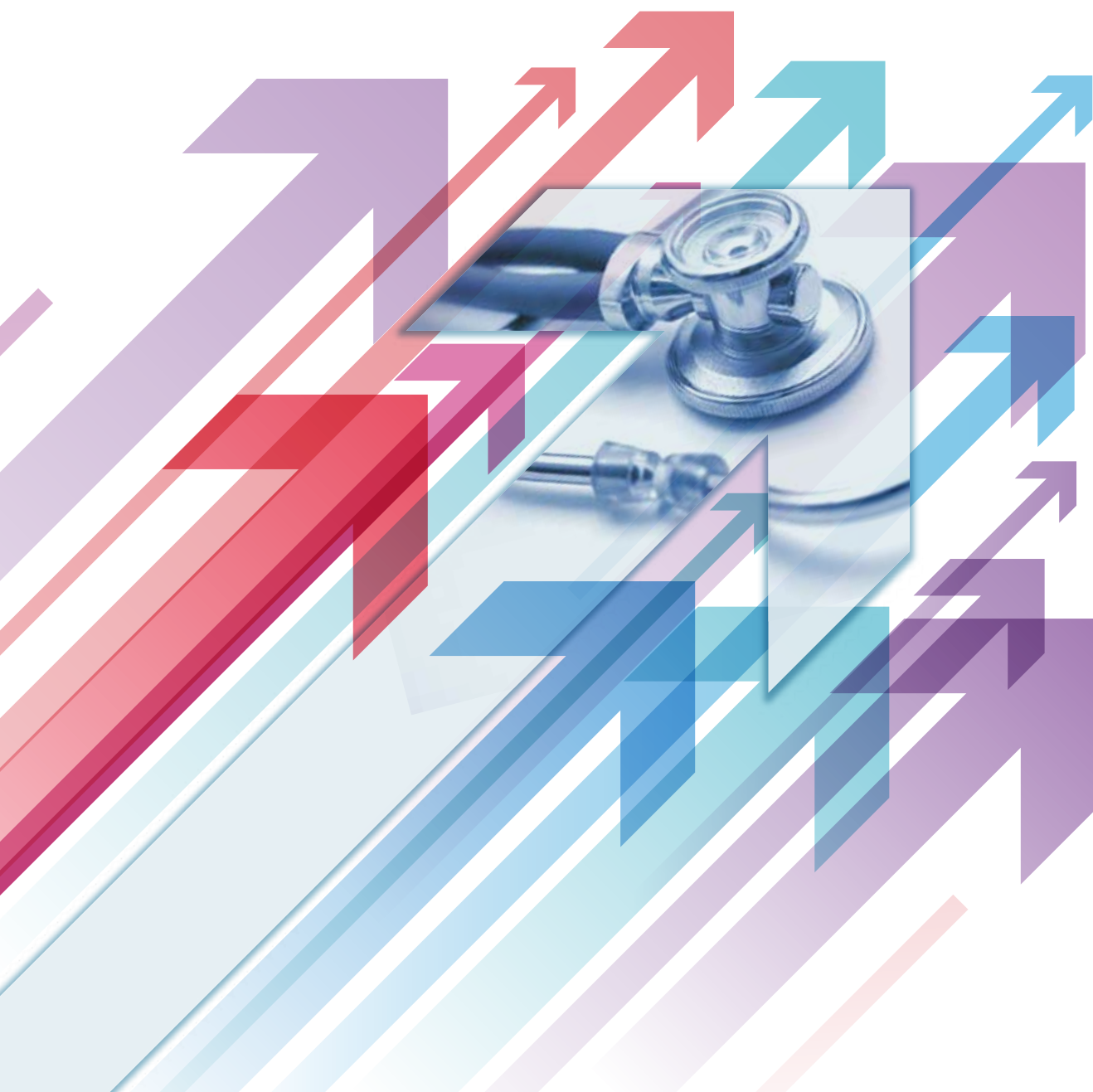
# 明日の医療の質向上をリードする医師養成プログラム



# ASUISHI

あ す い し

## 20XX年 医療の質KAIZENの常識がここから



名古屋大学大学院  
医学系研究科

**CQCA** 一般社団法人  
中部品質管理協会

**TOYOTA**

# 『明日の医療の質向上をリードする 医師養成プログラム(あすいし ASUISHI)』とは

誰もが安全、安心な医療を望んでいます。

「誰も」とは患者さんとそのご家族、医療チーム、医療機関を運営する人々、そして社会全体です。

『明日の医療の質向上をリードする医師養成プログラム (あすいし ASUISHI)』は、  
これらの方々の声に耳を傾け、誰もが望む明日の医療の形について考えるプロジェクトです。  
明日の医療を目指す医療機関に必要なものを、各機関をリードする医師に託す気持ちでこのプログラ

産業界には「モノづくりは人づくり」や「後工程はお客様」など、トヨタ哲学に基づいた品質管理手法が広く根付いています。明日の医療においても、患者第一という方針のもと、問題を根本から追及し、現場から組織運営までのプロセスを見直す質管理の手法導入が必須と考えます。

患者安全のために質管理手法を取り入れるやり方は名古屋大学附属病院においても始まったばかりです。ともに学び、切磋琢磨して、誰もが求める明日の医療の質向上を実現させましょう。



名古屋大学医学部 × TOYOTA

## 【医師養成事業】

医師養成事業では、これからの医療機関の基盤部門を率いる人財に求められる能力を実践できる医師を育成する約140時間のカリキュラムを提供しています。当院の基盤部門の業務ノウハウを世界の感染制御・安全管理の動向とともに伝えることと、特にメインコースではトヨタ自動車が確立してきた、プロセスで品質を作り込む手法を医療の安全性を高めるために実践するやり方を伝えることが目的です。

## 【人財ハブセンター事業】

人財ハブセンター事業では、カリキュラム履修者を支え続ける事業を展開します。基盤部門業務はマネジメントの仕事となるため知識を身につけても実践するにはさまざまな障壁が待ち受けていることとなります。病院組織のために目標を定め、どのように問題を解決していくか、ASUISHIプロジェクトメンバーやもしくは同じ思いを持って受講した仲間からのアドバイスや知恵が生きてくることがきっとあると思います。知識や手法のアップデートも含め継続して支援し続けるしくみが人財ハブセンターです。データ共有も行き、ベンチマークすることでさらに各組織の改善を促進します。



ムを作成しました。



名古屋大学は文部科学省の補助事業に採択され『明日の医療の質向上をリードする医師養成プログラム (ASUISHI)』を立ち上げました。

本事業がまずはじめに目指すのは、質管理の視点を併せ持ち、臨床現場の課題を粘り強く解決する医師の育成です。明日の医療に不可欠ともいえる医師育成カリキュラムは、産業界と連携して練り上げました。

さらに本事業では、育成した医師が各々の医療現場に戻った後にも着目し、継続してフォローできる体制づくりもいたします。本事業にご参加くださる医師のみなさまが「医療の質KAIZEN」のキーマンとなり、明日の医療をリードしてくださることを願っています。

名古屋大学大学院医学系研究科長 高橋雅英



ASUISHIへようこそ! ASUISHIプロジェクトメンバーは医師だけでなく、トヨタ自動車のTQM専門家や改善のプロなど、異業種の集団です。プログラムを構築するための数え切れない打ち合わせの中で、常識や慣例の違いなど多くの困難を共有し乗り越えてきました。それができるのは皆の目標が「明日の医療の質向上」を目指すというところで一致しており、それを具体化できるメンバーとしては今の集団をおいてないという自覚を持って協力し合っているからです。そしてこのプログラムに参加される皆さんもASUISHI事業を担う大切なメンバーです。ともに学び、ともに考え、医療の質向上をリードするよいチームになりましょう。

第2次世界大戦後の荒廃した日本におけるデミング博士の品質管理の教えは、世界に先駆けてTQC・TQMとして集大成されました。日本の高度経済成長期と重なり、大量生産による高品質な日本製品は、世界中を席卷していったのです。

一方で、現在の日本では、事故や不祥事が後を絶ちません。また、日本のホワイトカラーの生産性は、諸外国に比べて劣っているというデータもあります。製造業を中心に培われてきた、品質は工程で造りこむ(=自工程完結)という品質管理の基本の徹底が、今まさに日本のあらゆる企業・組織に求められているのです。

このたびのASUISHIプログラムにおいても、品質管理の考え方や手法が、医療の質向上に貢献できると確信しています。

トヨタ自動車株式会社相談役・技監、中部品質管理協会会長

佐々木真一

## 明日の医療の質向上をリードする医師養成事業は 管理職医師としての専門教育プログラム

名古屋大学医学部の医療基盤部門とトヨタグループの品質管理部門が連携して、患者安全・感染制御と医療の質管理を専門とする管理職医師を養成する事業です。

文部科学省の補助金事業として運営していますので、当面の間受講料は無料(テキスト代、旅費等は受講者負担)です。

### 【メインコース】

メインコースは、活動のリーダーとなり組織に働きかける実践力を習得することを目標とします。

患者安全や感染制御・医療の質について、世界標準となっている内容を身につけるとともに、問題解決の知識や技術に関しては、トヨタ自動車等製造業で確立された問題解決の標準手法に基づき、実際の課題を用いてテーマ学習するカリキュラムとなっています。

コース修了時にはテーマ学習の発表を行います。

### 【インテンシブコース】

インテンシブコースは、患者安全もしくは感染制御に重点をおいたカリキュラムを提供します。

患者安全インテンシブコースでは、患者安全に関する基礎知識を身につけ、有害事象発生時の組織対応を習得します。

感染制御インテンシブコースでは、ICD取得者を対象に理論と実践をバランスよく習得し、組織内で継続的に感染制御活動をリードできることを目指します。

なお、トヨタグループと連携した質管理の問題解決テーマ学習はメインコース受講者のみが対象となっています。

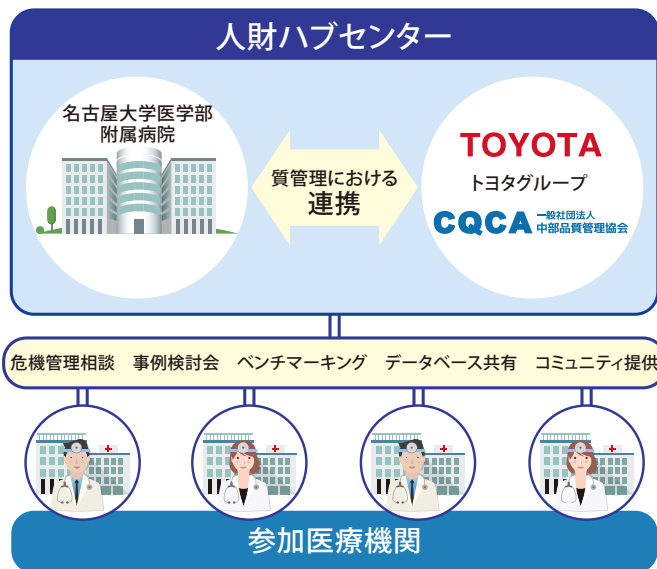
### コースの特徴

	メインコース	患者安全インテンシブコース	感染制御インテンシブコース
カリキュラム 総履修時間	120～140 時間	40～50 時間	40～50 時間
特徴	患者安全・感染制御・質管理に関する知識を深めながら、トヨタの問題解決8ステップ手法を用いて、自施設がかかえる課題をテーマにKAIZENを実践します。	受講時間が限られている方を対象にした患者安全の知識を深め、施設での有害事象対策ができることに焦点を絞ったカリキュラムです。	感染制御の知識に質管理・患者安全のエッセンスを取り込み、常に改善し続ける「1ステップ上の感染制御」への成長を目指すカリキュラムです。

## 医師養成事業カリキュラムを修了した医師を 継続的に支援し、つなぐ、人財ハブセンター事業

人財ハブセンター事業とは、明日の医療の質向上をリードする医師養成事業を修了した医師を継続的に支援し、ネットワークする事業です。

医療機関において、患者第一の視点を持ち、かつ組織の改善に取り組むリーダーとは、一朝一夕に育成できる人財ではありません。ASUISHIプロジェクトでは、明日の医療の質向上をリードする医師養成事業カリキュラムを修了した医師が、それぞれの施設において存分に能力を発揮するための支援もプロジェクトの一部としています。修了者が自らの所属医療機関において、マネジメント人財として大成するよう支援をし、継続的に修了者および所属医療機関をつなぐネットワークを構築します。



## 人財ハブセンター事業による継続的支援

### ネットワーク・コミュニティ提供・データベース共有

修了者が所属する医療機関の安全管理・感染制御部門をつなぐネットワークを構築します。コミュニティ提供による相互支援や情報交換の活性化、ウェブ会議システムを用いた多施設合同検討会の開催、マニュアルやベストプラクティスの共有などを行います。

修了者が所属する医療機関において、患者安全・感染制御・質管理に関する問題が発生した場合には、課題に関する相談への助言・指導を行います。

### 将来的には・・・

人財ハブセンター参加施設でベンチマーキングデータベースを構築・共有します。多施設間での客観的な分析に基づいた改善サイクルを回し続け、参加施設、引いては日本の医療機関の医療の質向上へつなげます。

# メインコース 目標とカリキュラム

## メインコース目標

### ユニット共通

履修者の医療機関が改善し続けることのできる施設となるため、明日の医療基盤部門体制を構築し、日本の医療機関の標準化および改善をリードする活動に参加し続ける。

共通	院内の患者安全・感染制御・質管理活動のために、多職種チームを設計・構築・調整できる。
	医師同士の連携の在り方を検討できる。
	院内に全病的に患者安全・感染制御・質管理を検討、改善する体制を構築できる。
	関連部署や多職種メンバーと良好なコミュニケーション・連携をとることができる。
	その領域に精通していない医師・他職種・患者に問題点を分かりやすく説明できる。
	院内業務を患者安全・感染制御・質管理の観点から認識できる。
	患者安全・感染制御・質管理に関する最新のエビデンスを取り入れ、活用できる。
	組織間交流活動に積極的に参加する。
	地域や全国のサーベイランスデータを用いて自施設を適切に評価できる。
	ベンチマーキングデータベースに主体的に参加し、その内容について意見できる。

### 患者安全

履修者の医療機関における患者の安全性を高めるために、患者安全に関する必要な知識を習得し、現場で役立つ手法、態度を身に付け、安全管理体制構築をリードする。

患者安全の原則	患者安全の原則をあらゆる業務に適用できる。
	医療倫理の原則を業務の中で再確認できる。
	患者安全の歴史を踏まえて、事例からその重要性を説明できる。
	医療実施上のエラーを分類できる。
患者安全情報の収集・分析・改善	医療が複雑なシステムの中で実施されていることを説明でき、システム思考が実践できる。
	安全文化醸成のため職員への効果的な患者安全教育が実施できる。
	インシデント報告の意義・役割を理解し、有効な報告収集体制を構築できる。
	収集したインシデント報告を分析、改善につなげる方法を多角的に検討できる。
有害事象・インシデント・マネジメント	エラー分析方法（なぜなぜ分析）の基本構造を理解し、日常業務の中で実践できる。
	多職種チームに分析方法を指導できる。
	改善につながる予防策を理解し、現場で実現可能なものを検討できる。
	M&Mカンファレンスの運営方法を理解し、現場で実践できる。
必要となるツールの実現	有害事象発生時に患者安全を最優先に院内の各部門に協力を要請し、集学的治療を検討する。
	有害事象を合併症、医療過誤、検証が必要な事例などに分類できる。
	有害事象発生時に必要な家族対応、公的機関への連絡、公表等に関する知識を習得し、適切にマネジメントできる。
	発生した死亡が異状死かどうかを検討できる。
患者参加の実現	医療事故調査制度の概要を理解し、組織の一員として適切に運用できる。
	事例の内容に応じた社会への説明責任を果たす事例調査会を開催し、報告書を作成する。
	ヒューマンファクターズ（人間工学）を理解し、事故原因究明や対策立案に活かすことができる。
	レジリエンス工学の考え方を知り、柔軟に対処できる組織の在り方を検討する。
患者・社会との対応	患者安全においてチームコミュニケーションを活性化させることの重要性を理解し、手法を指導できる。
	患者参加が重要となる理由を指導できる。
	患者が医療におけるパートナーとして参加できる病院体制を構築できる。
	説明と合意の原則を理解し、院内のICを標準化する体制を構築できる。
患者安全の実現のための各論	オープンディスクロージャーの原則を理解し、有害事象発生時等に指導・助言できる。
	患者・家族からの意見・苦情を分類し、職員にも患者にも適切な対応体制を検討する。
	患者の視点にたつて、医療の継続性（外来から入院、シフト交代など）の重要性を理解し、体制を整備する。
	医療法、医師法はじめ関連法令の概要を理解する。
患者安全の実現のための各論	訴訟対応時の考え方を理解し、説明できる。
	医薬品関連業務に潜むリスクを理解し、患者安全を確保する体制を構築する。
	医療機器関連業務に潜むリスクを理解し、患者安全を確保する体制を構築する。
	優越的行為に特有のリスクを理解し、患者安全を確保する体制を構築する。
患者安全のための適切な療養環境を検討できる。	
医療倫理審査体制の必要性を理解できる。	

### 感染制御

安全・感染・質管理の手法を応用した病院基盤システムを構築するために、感染症診療と感染対策の原則と実際のマネジメントを理解し、院内感染管理の質評価を行うことができる。

感染症診療	感染症の原因病原体を推定することができる。
	院内のアンチバイオグラムの活用法を理解できる。
	微生物学的検査の結果を適切に解釈できる。
	抗菌薬適正使用の基本を理解できる。
感染対策の計画・実践・評価	人体に病原性を有する病原体を挙げ、それぞれに必要な感染予防策を提示することができる。
	薬剤耐性のメカニズムとその感染対策上の重要性を理解できる。
	感染対策ラウンドの重要性を理解し、感染対策チームと協力してラウンドでの観察項目を選択できる。
	サーベイランスの方法と重要性を理解し、感染対策チームと協力して実施し、結果を適切にフィードバックできる。
	アウトブレイク発生時に感染対策チームと連携し院内・院外（保健所・報道など）への対応を適切に行える。
	医療従事者が曝露する危険性のある病原体を挙げ、感染対策チームとともに曝露時の対応策を立案できる。
	感染対策チームとともにワクチンプログラムを立案できる。
	感染制御上導入に必要な物品や構造物を考え、感染対策チームと協力して導入することができる。
施設の新設時に必要な感染制御上の対応を理解し、配慮することができる。	

### 質管理

医療機関において、安全で患者および地域社会から信頼や満足を得られる質の高い医療を提供するために、質管理について理解し、その手法を現場に応用し、課題解決型の病院マネジメント体制構築をリードする。

総論・マネジメント	質管理を実現するためのトップマネジメントの役割について理解している。
	その組織に即したマネジメント指標を設定できる。
質管理ツール	QC手法（Q7、N7等）を説明することができる。
	院内の問題に対しQC手法を用いて、現状把握ができる。
	FMEA（失敗モード影響分析法）の概要を理解し、活用できる。
	統計的な考え方を理解し、説明できる。
トヨタの品質管理	必要なデータの抽出方法を検討できる。
	関連するデータを用いて、問題解決に適用する計画が立案できる。
	QCサークル活動についてその有効性を説明することができる。
	課題を認識するために、現地現物を実践する。
	常にデータを用いて、検証する。
	患者さんの期待に応える視点をもつ。
	「異常があったら止める」を実践する。
	「必要なものを必要なときに必要なだけ」の意味を理解し、実践につなげる。
5Sの意義を理解し、実践の環境を整えることができる。	
ツールの質	トヨタの問題解決8ステップを説明できる。
	方針管理について説明することができる。
	日常管理について説明することができる。
	患者満足度調査の意義を理解し、利用を検討できる。
医療への応用	臨床指標（クリニカルインディケータ）の意義を理解し、自施設にあった指標を開発・活用できる。
	医療経営の概要を説明できる。
	業務の問題点を適切なツールを用いて顕在化（見える化）できる。
	医療行為のプロセスを設計できる。
職員のマネジメント	標準が必要なことを説明でき、設定を検討できる。
	プロセスのつくり、PDCA、SDCAを継続的に回せる。
	医療の質を高めるために職員のワークライフバランスの向上の意義を理解し、具体的な方策を検討できる。
	職員の多様性（ダイバーシティ）へ対応するための個別アプローチができる。
従業員満足度調査の意義を理解し、利用を検討できる。	



## メインコースカリキュラム

患者安全概論	患者安全の原則	
	患者安全の歴史	
	医療倫理に基づいた業務のあり方	
	分析方法実習(なぜなぜ)	
	警鐘事例の抽出OJT	
有害事象ケーススタディ		
感染制御概論	臨床微生物学その1	
	臨床感染症学その1(基本ロジック)	
	臨床感染症学その2(検査)	
	感染制御の考え方その1(サーベイランス)	
	感染制御の考え方その2(ラウンド)	
感染制御におけるリスクマネジメント		
感染ケースディスカッションおよびフィードバック①		
質管理・問題解決概論	日常管理と方針管理、質マネジメント	
	トヨタ流マネジメント	
問題解決コース	テーマ選定	問題解決コース①概要講義と事前選定テーマの確認
	現状把握 目標設定 要因解析	サーベイランス実習 問題解決コーステーマ指導 ①現状把握・要因解析
	対策立案 実施	問題解決コーステーマ指導 ②対策立案
	中間発表と フィードバック	問題解決コーステーマ指導 ③中間報告
	成果確認 標準化	問題解決コーステーマ指導 ④まとめ
		クリニカル・パス
		クリニカル・インディケーター
業務の見える化		
結果発表	問題解決コーステーマ指導 ⑤結果発表	
患者安全 選択必修科目	事例分析(RCA等)について	
	安全管理部の業務OJT	
	有害事象対応OJT	
	M&MカンファレンスOJT	
	院内インシデント検討会OJT	
	安全な療養環境整備(転倒、抑制など)	
	院内の倫理的問題演習	
感染制御 選択必修科目	臨床微生物学その2	
	抗微生物薬の基礎知識(分類・効果・特徴)	
	臨床感染症学その3(デバイス関連感染症の治療)	
	職業感染対策その2(ファシリティマネジメント)	
	臨床感染症学その4(院内感染症1)	
	臨床感染症学その5(院内感染症2)	
	抗微生物薬の応用知識	
自施設での演習		
質管理 選択必修科目	経営とQCサークル:考え方と運営の仕方	
	改善のためのデータの集め方と解析①概要	
	改善のためのデータの集め方と解析②実習	
	改善のためのデータの集め方と解析③まとめ	
改善のためのデータの集め方と解析④発表		
患者安全各論	ヒューマンファクターズ	
	医療実施上のエラーとその防止	
	事象(報告)トリアージ実習	
	医療事故調査制度、概要・運用	
	医療事故報告書の書き方	
	院内事故調査の進め方	
	有害事象発生時の対応	
	M&Mカンファレンス運営ケース実習	
	関係法令・訴訟対応	
	院内倫理審査体制の構築	
	確認不足問題(ノンテクニカルスキルも含めて)	
	team STEPPS実習	
	レジリエンスとノンテクニカルスキル	
患者参加(open disclosure含め)		
説明と合意		
医薬品の安全管理		
医療機器の安全管理		
侵襲的行為の安全管理		
FMEA/FTA(未然防止)		
職員への患者安全教育		
有害事象ケーススタディ		
感染制御各論	感染制御の考え方その3(デバイス関連感染症の予防)	
	抗菌薬適正使用	
	微生物学的検査実習	
	感染症診療の実際	
	ラウンド実習	
	臨床微生物学その3(耐性菌)	
	アウトブレイクへの対応	
職業感染対策その1(職員ワクチン接種)		
感染ケースディスカッションおよびフィードバック②		
質管理各論	QC手法(7つ道具、N7)	
	標準化と再発防止	
	ダイバーシティマネジメント	
	ファシリテーション力	
アンケート調査解析法		
医療経営(経営指標)		



# 履修のイメージ

メインコースを選択した  
北海道在住 あす先生の場合

飛行機で名古屋へ移動

開講日からの1週間は名古屋に滞在し、  
講義とグループディスカッションで  
しっかり勉強。



患者誤認  
を防ぐ



開講週にはメインコースを通じての『課題』  
を決定。  
あす先生は『救急外来における患者誤認  
撲滅』を課題としました。  
現状把握、対策立案、実施、すべて対面  
指導によるカリキュラムでサポートされて  
います。

あす先生は自分の病院でデータ収集。  
もちろんデータの集め方や解析の仕方も個  
別対面指導を受けながら進めることができ  
るので安心です。



患者安全、感染制御と質管理の三本柱か  
らなるメインコースカリキュラムは効率的  
に受講できるように e-learning カリキュ  
ラムでの履修と1ヶ月に1回のペースで集中  
して行う約2日間の参加研修とOJTで構成  
されています。

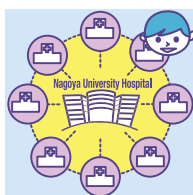
毎月のディスカッションやWebカンファ  
レンス、対面指導を受けながら  
『救急外来における患者誤認撲滅』の課題  
は解決に向かって進められていきます。



6ヶ月の履修を修了して、名古屋大学履修  
証明書と医療安全管理者養成研修修了証  
を取得。

あす先生の病院では患者確認を確実に、  
という現場の気運が高まってきました。  
今後も、あす先生は病院での  
KAIZEN(カイゼン)の立役者です。

修了者は人財ハブセンター事業に登録。  
気軽に相談したり、他の施設では  
どのように対応しているかを  
教えてもらったりすることができ、安心です。



## プロジェクトメンバー

高橋 雅英

事業責任者 名古屋大学大学院医学系研究科長

長尾 能雅

名古屋大学医学部附属病院副院長 医療の質・安全管理部長

八木 哲也

名古屋大学医学部附属病院中央感染制御部長

安田 あゆ子

名古屋大学医学部附属病院医療の質・安全管理部副部長

青松 棟吉

名古屋大学医学部附属病院総合診療科講師

安藤 昌彦

名古屋大学医学部附属病院先端医療・臨床研究支援センター准教授

白鳥 義宗

名古屋大学医学部附属病院メディカルITセンター長

向田 美保

名古屋大学医学部附属病院卒後臨床研修・キャリア形成支援センター副センター長

井口 光孝

名古屋大学大学院医学系研究科特任助教(中央感染制御部)

丹羽 由紀子

名古屋大学大学院医学系研究科特任助教(医療の質・安全管理部)

福島 曜

名古屋大学大学院医学系研究科特任助教(医療の質・安全管理部)

古谷 健夫

トヨタ自動車株式会社TQM推進部主査

岩本 伸夫

一般社団法人中部品質管理協会専務理事

細見 純子

一般社団法人中部品質管理協会経営企画室兼企画部次長

植村 政和

名古屋大学大学院医学系研究科研究員

市川 真由美 / 伊豆原 優子

名古屋大学大学院医学系研究科データマネジャー

渡邊 正

名古屋大学大学院医学系研究科事務補佐員

片岡 千恵子

名古屋大学大学院医学系研究科事務補佐員



【お問合せ先】

名古屋大学医学部附属病院内  
ASUISHI プロジェクト推進室

〒466-8560 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65番地

TEL: 052-744-2609

E-mail: hrcjimu@med.nagoya-u.ac.jp



<http://www.iryozanzen.med.nagoya-u.ac.jp/asuishi/>

募集について、詳細はこちらの公式Webサイトでご覧ください。